京都女子大学 × 日経ウーマノミクス プロジェクト

京女生（きょうじょ）が企業取材　社会で輝く女性からエール

京都女子大学は二の秋、特別講座 日経ウーマノミクスプロジェクト「プロに学び、ジブンで作る新聞紙面」を開いた。昨年に引き続き2回目の開講。在学生1～3回生の20人あまりが参加し、日本経済新聞社による講演や取材・記事の執筆に関する講義を受けた。さらに、企業で働く女性8人の取材にのぞんだ。仕事内容や職場の環境、プライベートとの両立、今後の目標についてなど、女子学生ならではの感性で質問を投げかけた。取材は和やかに進められ、対象者たちからは温かなエールが。聞く力や伝える力を磨くとともに社会で活躍するヒントを感じ取り、輝く将来の自分像に胸を膨らませた。

宝酒造
商品部 醸造酒グループ
醸造酒課 専任課長
田和　綾子さん

娘の一言が継続の力に

仕事と育児の両立は毎日が多忙で、子供に負担をかけているかな、と悩むこともあります。でも、私が携わった新商品を店頭で見た娘が「ママ、新しいのが出てる！」とうれしそうに話す姿を見ると、仕事をしていて良かったなぁ、と感じます。

お酒が好きだったのと、当社が国内のこだわりや技術などの強みがあり、他社が自腹に追随できない商品を出せていることが入社動機でした。現在は、お酒に詳しい関心がない方にも飲んでいただける、「スパークリング清酒「雫」」などの開発に取り組んでいます。

日本酒の熟成酵母が明治をターゲットにした商品が多く、職場環境も男性が多いですが、最近は結婚後も働く女性社員が増えまして、それぞれのスタイルで仕事と育児を両立しています。

若いころの人生のテーマは「冬を探し」。大学時代から様々な国に旅行したり、イタリア語を勉強したり、興味あることに挑戦してきました。今は、あまり時間はありませんが、育休中にはシニアソムリエなどの勉強もしました。

仕事や育児でうまくいかないことがあっても、育児のおかげで落ち込む暇がなくないのが私にとっては（笑い）。

家族や実家のお父さまにこそ、育児をしながら働ける、今の環境に感謝しています。

積水ハウス
コーポレート・コミュニケーション部
CSR室 主任
信田　由加里さん

一人でできる仕事はない

「一人でできる仕事はない。私が動く中で、弱く実感していることです。

京女生時代、ゼミの教授が女性の店舗、人材育成を推進していたことなどに影響を受け、総合職を志しました。一人のお客様と長くおけ付き合いできる営業職を探し、縁あって入社したのが積水ハウスです。

自ら希望した営業職でしたが、入社当時は失敗の連続でした。甚だ恥ずかしい話ですが、一本の電話を受け、あるお客様を訪問し、まずは親しくなることを心がけました。

社内のパワーアップは強力です。様々な人の手助けを得てお客様が求めている答えを持って再訪しました。最後には「あなたがこのお宅に初めてきてくれたからこそ契約を決めてくれた」と契約を決めてくれました。

今は事業を通じた社会貢献の解決を推進するCSR業務を担当していますが、多くの人と関わりながら会社の魅力が発信できるには、営業と変わりません。

積水ハウスは素敵な人材が大勢います。私の今後の目標は、憧れの先輩たちのようになり、組織の要として働くこと。先輩の皆さんも、奥様がおこと、やってみたいことに、積極的に挑戦してほしいです。

ワコール
ウンナナクール 商品MD
三浦　早那江さん

好きな会社で もっと成長

私はこの会社が大好きです。入社を決めたきっかけは、就職活動中に先輩社員にお話したことです。社同士でアクティブな人が多く、社員同士の関係もいい。そんな企業風土にひかれました。

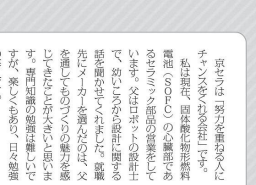
会社が性別によって待遇を変えることなく、一人ひとりを見てくれることも大きな魅力です。積極性を重んじる雰囲気は、体育会系の雰囲気に馴染めるできた私に合っていたのでしょう。

入社後は百貨店での店舗販売、人事部を経験しました。産休から復帰した現在は、ワコールの子会社であるウンナナクールに出向し、商品部のマーチャンダイザーに就任。商品の発売時期やカラー・サイズの種類、海外展開についてなど、重要なかじ取りを任されています。

働くうえで目標にしているのが自己成長です。出産を機にキャリアチェンジすることも考えましたが、この会社でやりたいことはまだまだたくさん。今辞めたらもったいないと思い、仕事と育児を両立しています。

大変なこともあいですが、社員の9割が女性である当社には、短時間勤務制度などがあり、女性にとって働きやすい環境が整っています。もちろん、個人の努力も大切。限られた時間で成果を出せるように集中して仕事に取り組んでいます。

今後も自分の強みを磨き続け、組織を牽引できる人材に成長していきたいです。



京セラ
自動車部品国内第2営業部
SOFC営業係
河野　真弓さん

目標へ努力すればチャンスが

京セラは「努力を重ねるにチャンスがくる」会社だ、です。

私は現在、固体酸化物燃料電池（SOFC）の心臓部であるセラミック部品の営業をしています。父はロボットの設計に関する話を聞かせてくれました。就職先にメーカーを選んだのは、父にもっとものづくりの魅力を感じてきたことが大きいと思います。専門知識の勉強は難しいですが、楽しくもあり、日々勉強の毎日です。

努力を重ねる人にチャンスを、と、まずは新入社員研修で、社内の多くの方々にプレゼンを控えていたときのこと。社内の多くの方々に大絶賛してしまいました。それでも上司は私のこれまでの努力を認めてくれ、担当外さず挑戦させてくれたのです。努力を続け、本番では成功し、受注に結びつきました。

京セラには多くの女性社員がいますが、産休・育休、時短勤務などの制度が充実し、女性活躍推進にも力を入れています。私も、結婚・出産しても仕事を続けたい考えでいる一人です。

部署にも仕事と育児を両立している人がおり、周りが理解している様子を見て制度・環境ともに整っていると感じています。

学生時代には英語の学習に取り組みました。現在の部署では海外のお客様と直接話すこともあり、学生時代の経験が役立っています。学生の皆さんにもぜひ、語学に挑戦してほしいです。

京都銀行
九条支店 支店長代理
室田　麻耶さん

続けた先に成長した自分

京女生時代、食物栄養学科で勉強に明け暮れた私が、就職して飛び込んだのが金融の世界でした。想像していた以上に業務の幅は広く、勉強することは山ほどあります。自分の未熟さを痛感して何度も壁にぶつかりました。でも、忍耐で頑張り抜いたことが自分の成長につながりました。この仕事を続けてきたからこの私があります。

京都で生まれ育ち、働くのも京都がいいと思っています。学内の職セミナーで京都銀行の話を聞き、身近だった銀行が常に成長を目指す高い目標を持っていることを知って感動し、入社を決めました。

当店は窓口のサポートや預金、書類の手続きをする後方業務を担当し、のちに融資係に異動。同じ時期に主任へ昇格し、その立場に責任を感じる一方、新しい業務にも興味、力不足を感じて毎日悩みました。

そんな時に力になってくれたのが同僚や友人たちです。悩みを共有し助け合って乗り越えることができました。接客の丁寧さなども磨ける行内のイベントや入賞し結果を残せたことで、部下の励みになれたことも自分の財産になっています。

現在は後方業務を担当し、部下のサポートをしています。当行では仕事と家庭の両立支援制度などが拡充しており、女性管理職も多く活躍しています。私も、もっと自力に自信を持てる人間に成長していくのが目標です。

日本新薬
薬業本部 営業企画統括部
医薬研修部 人材育成課 係長
片桐　千尋さん

いつも笑顔で 社会に貢献

働くうえで一番大切にしているのは、笑顔でいること。どんなときも前向きに発言するように心がけています。

短期留学やバイトに取り組んでいた学生時代。就職活動の中でMR（医薬情報担当者）という職業を知りました。医薬品を通して、病気の方々の治療に貢献できることが魅力で、難病のための薬を開発している日本新薬に入社しました。専門知識の勉強が不安でしたが、会社の研修制度が手厚く、安心して打ち込むことができました。

配属先は埼玉県でした。慣れない土地で車を運転しながら病院を回る日々。先生に自社製品について説明することも向けず、支えくれたのは同僚の皆さんでした。先輩方まで会話できるように話題づくりに励むなど、前向きに接してくれました。

今年の春、社内研修に携わる部署に異動し、関西に帰ってきました。全国のMRと触れ合えることに、刺激しられることに、やりがいを感じています。

MRは全体の約2割が女性。当社でも女性リーダーの登用、育成に力を入れています。2017年に行ったステップアップしたい女性を応援する「マミエヌサプリプロジェクト」が発足したほか、産休・育休後の復帰制度も整っています。

笑顔で頑張れるのは、こうした働きやすさ、風通しのよさのおかげと感謝しています。

タキイ種苗
総務部 人事課
中田　永子さん

働き方が変わった３年間

学生時代、レストランでのバイトを通じて人に関わる楽しさを実感したのが、ホテル業界を志したきっかけです。現在はコンシェルジュとして、旅行プランの提案やレストランの予約といった対客様の要望に対応しています。お客様一人ひとりと信頼関係を築けること、特別な時間を過ごすお手伝いができることに、やりがいを感じます。

印象に残るエピソードがあります。東京に住む外国人男性からの依頼でした。「旅行で来日する両親が京都センチュリーホテルに泊まるので、内緒で会いに行きたい」とのこと。当日、部屋を飾り付け、ケーキも用意しました。後ほど両親の到着を待つばかりでしたが、なかなかお見えにならません。後から聞くと飛行機が遅延していたそうですが、不安そうな男性に一時、待ち続けました。

予定の3時間後、ご両親が無事に到着し再会を果たせました。会えるのは年ぶりだったそうで お母様は泣き、この様子をじっと見守るスタッフもいました。どうしても瞬間にたち会えることがこの仕事の魅力だと改めて感じました。

京都センチュリーホテルの一番の魅力は「人」。上司や経営陣が温厚で、意見を聞いてくれますし、スタッフのお客様への思いやりは他には負けません。私も、常に お客様の気持ちに寄り添えるスタッフでいたいと思います。

仕事を続けるうえで大切なことは、まずは自分の置かれている環境を受け入れ、そのうえで変えることを考えること。育休復帰後の仕事のあり方に悩むなか、それを実感しました。

小さい頃から花が好きで、世界の農業に貢献しているタキイ種苗に入社しました。営業として全国の農家を回り、山梨・育休を経て、総務部に移ました。

復帰後の3年間は本当に苦労しました。幼い子供を保育所に預け、限られた時間の中で仕事をするのは大変なことです。状況によっては急に仕事を早退したり、休んだりしなければなりません。自分の責任を全うできているのかが悩み、何度も仕事を辞めようと思いました。

同時期に同僚が育休から復帰していたので、悩みを共有できたのは助かりました。抱えている仕事をこまめに伝えてお願いするなど、仲間に頼ることも学びました。総務部として社内の皆が心地よく働けるようにサポートする中で、視野を広げることができたと思います。

最近は女性社員が主体の「たねっかっフロジェクト」に力を入れています。検査基準にない廃棄種子を使って雑貨作のワークショップを開き、交流の輪を広げるのが目的です。作品写真を収めたカレンダーを社内や取引先に配っており好評です。今後もこうした取り組みを通じ、タキイ種苗を広く知ってもらえたらと思います。

講座を終えて…

講座に参加した学生たち

講座を通じ、取材や文章の書き方についてプロに学んだ学生たちから以下のような声が届いた。

働く女性の生の声を聞き、社会で働くイメージができた／実際にプロが取材している様子を見て貴重な経験になった。取材時の自然な会話は簡単そうで難しいと感じた／取材することで、自分が将来どのように働いていきたいかを考えるきっかけになった／取材は事前の準備が重要であることを学んだ／さらに色々な職業を知っていこうという意欲が湧いた／新聞記事の裏にこうした取材や執筆作業があると知り、しっかり読もうと思った／文章を添削してもらうことで自分の文章のクセを知るなど勉強になった。今後に生かしていきたい／初めての取材や執筆に取り組むことで自信がつき、自分の強みにできた――など。

進化し続ける京都女子大学――

100年の伝統を誇る京都女子大学は、仏教精神に基づき、心豊かな女性たちを社会に輩出してきた。今、ダイバーシティ（多様性）社会のあらゆる場所で活躍するリーダーを育成するため、さらなる改革を進めている。

そのひとつが、学生の研究活動を支える新図書館の開館だ。約84万冊を所蔵。北側は地下1階～4階が吹き抜けになっている「知恵の蔵」で、壁面に約30万冊の図書を収蔵。学びに最適な知的空間を生み出している。

南側の地下にある「交流の床」には様々なスペースがあり、目的に応じて使い分けることができる。「知恵の蔵」と「交流の床」の間には、キャンパス全体をつなぐ「京女坂」と「坂中のひろば」が誕生した。

2017年9月には新学生寮も完成した。3人部屋の寮室には各個人スペース、各階にはキッチンやダイニングコーナーを設けている。既存の東山寮の全面リニューアルも完了し、来春には北側に増築棟が完成するなど、学生寮すべてが新しくなる。

地域に根差しながらも、世界に開かれた大学へ――。力ある人材を送り出すため、京都女子大学は歩み続ける。

この秋に開館した新図書館

広告

らしさを つよさに 未来をひらく
京都女子大学
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35
http://www.kyoto-wu.ac.jp/

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局

日本経済新聞2017年12月15日(大阪本社版夕刊)掲載